

昨年度発掘された製鉄関連遺跡の紹介



2013 日本列島新発見展「鉄」関連展示 見学抜粋 2013.6.15.

1. 弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村

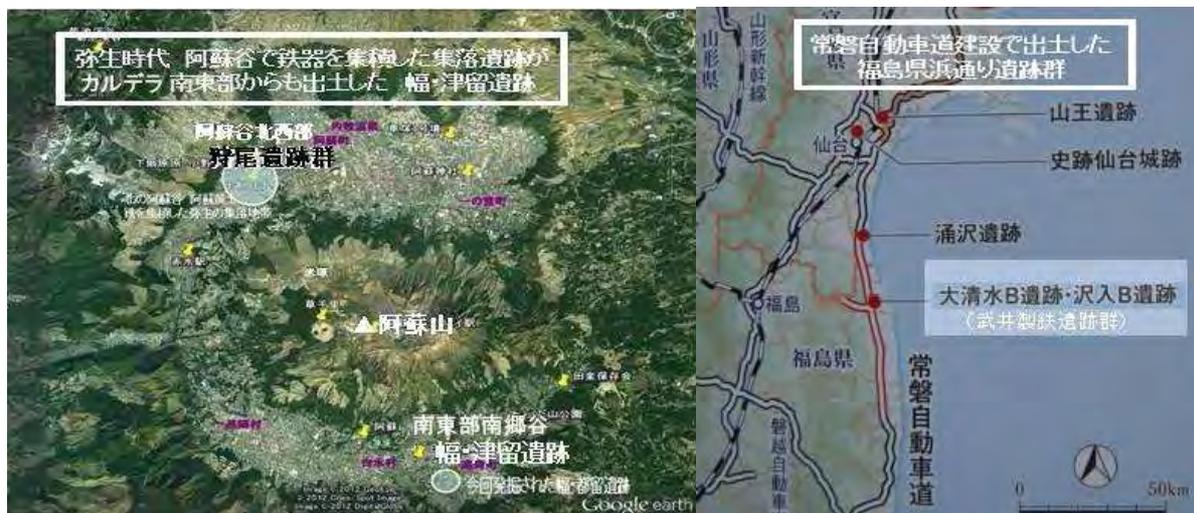
阿蘇カルデラ北の阿蘇谷のほか 南東部 南郷谷でも鉄器を集積した集落遺跡があった
環濠・倉庫・工房・墓を備えた中期～後期中九州拠点集落
石器から鉄器へ 道具の変遷も明らかに

2. 大清水B遺跡・沢入B遺跡 福島県新地町

平安時代大和政権の蝦夷征伐の最前線の兵器庫 武井製鉄遺跡群の製鉄遺跡
平安時代 9世紀半ばの製鉄炉 同一時期・同一地点で竪型炉と箱型炉が併設
同時期に二つの異なるタイプの製鉄炉が併設されているのは福島県浜通り北部の特徴

毎年6月東京江戸博物館で、「日本列島新発見展-新考古学発見速報-」開催され、合わせて昨年発掘された主要諸遺跡のレビューした図録が出版される。「今年はどうな新しい発見があったのか 製鉄遺跡は・・・」と待ち遠しい展覧会で、毎年図録出版が待ち遠しい。

6月15日に東京で集まりがあるのをチャンスに「日本列島新発見展-新考古学発見速報-」見学に行ってきましたので、その展示ならびに図録から製鉄関連遺跡 阿蘇カルデラの南東部南郷谷 鉄を集積した弥生遺跡「幅・津留遺跡」と東北常陸海岸の丘陵地にある平安時代の製鉄コンビナート群武井の「大清水B・沢入B遺跡」の発掘概要をご紹介します。なお、この展覧会では展示物・展示場所のほとんどで 写真撮影がok。また 展示の内容も本当にわかりやすくなったと……。 もっとも展示のコントロールがボランティアに任せられ、説明が????になることも。



1. 弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村

環濠・倉庫・工房・墓を備えた中期～後期中九州拠点集落 石器から鉄器へ 道具の変遷も明らかに



阿蘇のカルデラ内 石器中心の西の村から 鉄器中心の東の村へ 弥生時代 道具の変遷が見られる遺跡 幅津留遺跡

阿蘇谷の北部 ベンガラ原料阿蘇黄土が出土する狩尾地区には弥生時代後期 周囲の遺跡に先立って鉄器を大量に集積した弥生集落遺跡群 「狩尾弥生遺跡群」がある。しかし なぜ、周囲の遺跡にはない先進の鉄器を集積した理由は良くわからないが、阿蘇黄土は濁鉄鉱で品位は低いが 製鉄原料になりうるかも知れず、製鉄との関連性も考えられる。

そんな阿蘇カルデラの東南部南郷谷 弥生中期から後期の弥生集落遺跡「幅・津留集落遺跡」からも鉄器工具が出土した。

しかも 集落の移り変わりが石器から鉄器への工具変遷を明確にしめているという。



阿蘇谷北部 弥生後期の「狩尾遺跡群」に先立つ弥生中期 阿蘇カルデラ東南部南郷谷の「幅・津留集落遺跡」から鉄器工具の集積が見つかった。阿蘇谷の鉄器集積の謎を解くカギになるかもしれないと興味深々です

私の阿蘇谷 2012.11.1. by Mutsu Nakanishi

私の阿蘇谷 2012.11.1. by Mutsu Nakanishi



昨年出かけた阿蘇谷 ベンガラ原料の阿蘇黄土が広がる弥生時代後期鉄を集積した狩尾弥生後期の集落遺跡群【和鉄の道・Iron Road】

阿蘇谷にベンガラの原料・「阿蘇黄土」を訪ねましたまた、日本一美しいダム 豊後竹田白水ダムへも

私の阿蘇谷「阿蘇黄土」を訪ねる 古代の製鉄原料??? 2012.11.1.& 11.2.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1212asodani00.htm>

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron11.pdf>

阿蘇谷に大量に埋蔵される濁鉄鉱 ベンガラ原料の「阿蘇黄土」これが日本での製鉄の開始と関係していないか??? 是非一度阿蘇谷に行って「阿蘇黄土」に出会いたいと……

道路建設途中に発見されたこの遺跡、全長1300m幅14mの区域で、竪穴建物・高床倉庫・環濠・墓・居住区と墓を区画する溝・祭祀土坑などを有する時代の異なる二つの集落跡を確認。

弥生時代中期後半の西側の集合集落＝西のムラ

弥生後期後半に出来た東側の集合集落＝東のムラ

人口増加に伴い東に移動したと思われるが、様子はちょっと違う。



遺構配置(東のムラ)

東西どちらのムラも溝で居住域と葉回帰が区画されており、東のムラの墓域では木棺墓や土坑墓が焼く290平方畝内に107基発見された。また、倉庫域内にも小さな木棺墓があり、子供の墓を家の近くに作ったものと考えられている。高床倉庫は東西どちらのムラでも標高が最も高い位置にあり、意識的に高い場所を選択していたと考えられる

西の村では環濠を備え、外部から容易には進入できない。一方、東の村には区画溝があるが、浅いものでいつでも入れ、東の村が形成されたときには激しい戦いはなかったのかもしれないという。

また、西の村では磨きあげた石鏃など石の道具が中心なのに東の村では鉄器が道具の中心であった。

これだけ道具の変遷がわかる遺跡は大変珍しい。



幅・津留遺跡 6

【遺跡の概要】

【幅・津留遺跡と周辺の弥生遺跡】

幅・津留遺跡は、阿蘇カルデラ内にある、弥生時代の中期から後期の大集落です。カルデラ内の南の平野部では最も標高が高く、周囲に点在する弥生集落を一望できる立地です。

幅・津留遺跡 6

【遺構配置図】

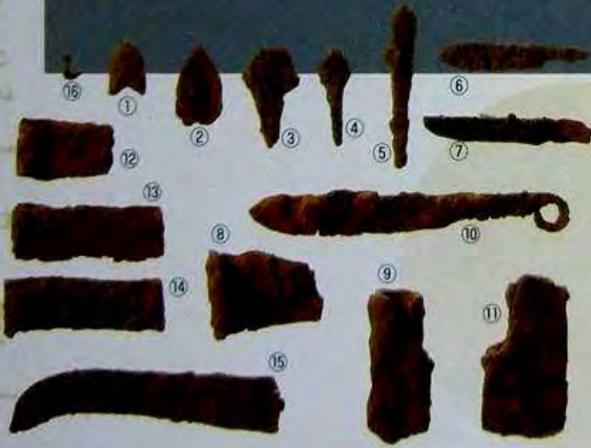
これまでの発掘調査で、始めに時期差のある東西二つのムラがあったことがわかりました。東のムラでは平成 18 年(2006)からの発掘調査により、竪穴建物、掘立柱建物、環濠、墓、居住域と墓を区分する区画溝、祭祀土坑などが発見されました

幅・津留遺跡 6

【西のムラの東側の環濠】

西のムラ(約 2,000 年前)では石の道具が、東のムラ(約 1,800 年前)では鉄の道具が中心でした。西のムラから東のムラへと移り住んだと考えられ、道具の変遷がわかります。





鉄製品

弥生時代後期（約 1900～1800 年前）
 右下の⑩（鍛造鉄斧）のみが西のムラの土坑から出土したもので、他はすべて東のムラの竪穴建物などから出土しました。東のムラの鉄製品は、数量・器種ともに豊富で、道具が鉄に切り替わっていることが理解できます。

- ①～⑤鉄鏃 ⑥～⑦刀子
- ⑧刃の先が折れた鎌
- ⑨袋状鉄斧
- ⑩素環頭刀子 ⑪鍛造鉄斧
- ⑫～⑭手鎌 ⑮鎌 ⑯釣針



砥石

弥生時代後期後半（約 1800 年前）
 東のムラの竪穴建物からは砥石が大量に出土します。同じ形状で大きさが異なる砥石が1軒から12点出土した例もあり、鉄鏃や刀子などに使い分けていたと考えられます。



丹塗高杯

弥生時代中期後半（約 2000 年前）
 西のムラの中期後半の祭祀溝から出土しました。赤い顔料（ベンガラ）を塗った土器（丹塗土器）です。ほかに壺、杯、甕などが出土しています。後期の祭祀土坑からは、この高杯は1点も出土していません。弥生時代中期と後期とでは、出土物からも「まつり」に違いが生じてきていることがわかります。

壺

弥生時代後期後半（約 1800 年前）
 壺の口（口縁部）が「く」の字に湾曲しています。後期の祭祀土坑から出土しました。

磨石

弥生時代後期後半（約 1800 年前）
 東のムラの竪穴建物から出土しました。阿蘇地方は鉄を含んだ土（阿蘇黄土）を大量に産出します。この土を焼いて作った顔料であるベンガラを粉状に砕いて膠に溶かし、絵の具にしていたと想定されます。この磨石にはベンガラが付着しており、固体状のものを粉状に粉砕するために使用したものと考えられます。



阿蘇カルデラ内南東部 高森町・南阿蘇村
 石器から鉄器道具への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品(1)

石器から鉄器の道具への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品(2)



2013日本列島発掘新発見展 展示より

【参考】和鉄の道 黄金吹く行方製鉄遺跡群 福島県 原町 蝦夷征伐の兵器庫 金沢製鉄遺跡

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jst1aa04.pdf>

和鉄の道 口絵 2007 口絵 3. & 口絵 4

口絵 2007 3. 古代製鉄炉の変遷 たたら炉の大きさや構造の変遷

口絵 2007 4. 8世紀 モデル化された量産古代製鉄炉を完成 地方拠点に大製鉄コンピナートが出現

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron00.pdf>

【 2013 日本列島展 そのほかの展示スナップ 2013. 6. 15. 】



ミズク土偶 上埴埴台貝塚



陸奥の埴輪
●大輪・柳字・鎌倉古埴輪 ●佐紀古埴輪 ●古市古埴輪 ●百舌鳥古埴輪 ●高島古埴輪



京都東寺の平安時代の土製



始良丹沢火山灰の上下で石器出土 地蔵平遺跡 始良カルデラの大噴火を生き延びた北部九州旧石器人



古墳時代の金装飾付太刀 鳥居松遺跡



発掘された日本列島2013 新発見考古学展
2013.6.15. 東京両国 江戸東京博物館



発掘された日本列島 2013
新発見考古学展
2013.6.15. 東京両国 江戸東京博物館



2013日本列島新発見展「鉄」関連展示 見学抜粋 2013.6.15.

- 弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村
阿蘇カルデラの阿蘇谷のほかに 南東部 南阿蘇にも鉄器を蓄積した集落遺跡があった
環濠・倉庫・工房・墓を備えた中期～後期の中九州拠点集落
石器から鉄器へ 道具の変遷も明らかに
- 大清水B遺跡・沢入B遺跡 福岡県新城市
平安時代大和政権の蝦夷征伐の前線の兵器庫 武井製鉄遺跡群の製鉄遺跡
平安時代 9世紀半ばの製鉄炉 同一時期、同一地点で変型炉と箱型炉が併設
同時に二つの炉が併設されているのは福岡県筑前市北部の特徴

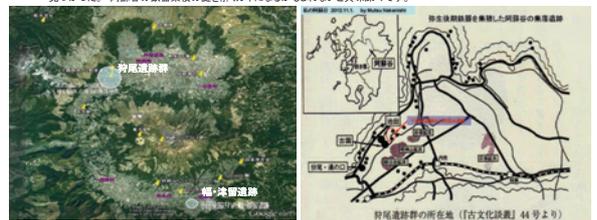


1. 弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村

阿蘇カルデラ北の阿蘇谷のほかに 南東部 南阿蘇にも鉄器を蓄積した集落遺跡があった
環濠・倉庫・工房・墓を備えた中期～後期の中九州拠点集落
石器から鉄器へ 道具の変遷も明らかに

阿蘇谷の北部 ベンガラ原阿蘇黄土が出土する狩尾地区には
弥生時代後期 扇面の遺跡に先立って鉄器を大量に蓄積した弥生集落遺跡群「狩尾弥生遺跡群」がある。
しかし、扇面の遺跡に先立って先史の集落を築いた跡は多く見つかっていない。
阿蘇黄土は高鉄で品位は高いが 製鉄原料にならないかも知れず、製鉄との関連性も考えられる。

そんな阿蘇谷の東南部 弥生中期から後期の弥生集落遺跡「幅・津留集落遺跡」から鉄器工具が出土
しかも、集落の移り変わりが石器から鉄器への工具変遷を明確にしているという。
阿蘇谷北部 弥生後期の「狩尾遺跡群」に先立つ弥生中期 阿蘇谷東南部の「幅・津留集落遺跡」から鉄器工具の集積が
見つかった。阿蘇谷の鉄器集積の謎を解く鍵になるかもしれないと興味深々です。



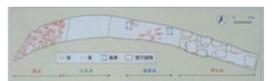
《【写真アルバム】2013日本列島列島新発見展「鉄」関係展示抜粋》

私の阿蘇谷 2012.11.1. by Mutsu Nakaniishi

阿蘇谷の地形と遺跡の分布を示す図解と説明文。阿蘇谷の北部には、弥生時代後期の「狩尾弥生遺跡群」があり、扇面の遺跡に先立って鉄器を大量に蓄積した。阿蘇谷の東南部には、弥生中期から後期の「幅・津留集落遺跡」があり、鉄器工具の出土が確認されている。阿蘇谷北部には、弥生後期の「狩尾遺跡群」があり、鉄器工具の集積が確認されている。

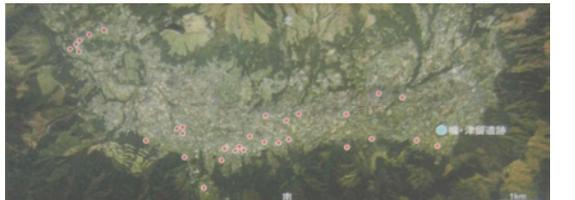
弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村 2013日本列島新発見展 図録より

道路建設途中に見られたこの遺跡、全長1300m幅14mの区域で、竪穴建物・高床倉庫・環濠・墓・居住区と墓を区画する溝・祭祀土壇など多岐にわたる時代の異なる二つの集落跡を確認。
弥生時代中期後半の西側の集合集落一帯のムラ
弥生後期後半に出来た東側の集合集落一帯のムラ
人口増加に伴い東へ移動したと思われるが、様子はちがって違う。



西の村では環濠を築き、外部から容易には進入できない。一方、東の村には区画溝があるが、浅いものでいても入れ、東の村が形成されたときには激しい戦いはなかったのかもしれないという。
また、西の村では磨きあげた石鏡など石の道具が中心なのに対し、東の村では鉄器が道具の中心であった。
これだけ道具の変遷がわかる遺跡は大変珍しい。

遺構配置(東のムラ)
東西どちらのムラも溝で居住区と墓回廊が区画されており、東のムラの墓域には木棺墓や土坑墓が概200平方メートル以内に107基見られた。また、倉庫域内にも小さな木棺墓があり、子供の墓を家の近くに作ったものも考えられている。高床倉庫は東西どちらのムラでも高さも最も高い位置にあり、意図的に高い場所を選択していたと考えられる。



幅・津留遺跡

【遺跡の概要】
この遺跡は、阿蘇カルデラにある弥生時代中期から後期の大型集落です。カルデラ内の平地部では最も規模が大きく、周囲に点在する弥生集落を一望できる立地です。

幅・津留遺跡は、阿蘇カルデラにある弥生時代中期から後期の大型集落です。カルデラ内の平地部では最も規模が大きく、周囲に点在する弥生集落を一望できる立地です。

この遺跡は、阿蘇カルデラにある弥生時代中期から後期の大型集落です。カルデラ内の平地部では最も規模が大きく、周囲に点在する弥生集落を一望できる立地です。

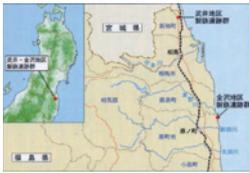




石器から鉄器の道具への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品(2)



2. 平安時代大和政権の蝦夷征伐の最前線の兵器庫 福島県浜通りの製鉄遺跡群



奈良・平安時代 7世紀後半から9世紀後半にかけて、福島県浜通り地域で多数の製鉄遺跡群が確認されており、中でも相馬地区地方では、新地町・武井製鉄遺跡群、相馬市・大井製鉄遺跡群や、南相馬市・金沢製鉄遺跡群など200を超える製鉄遺跡が出土している。

これらの製鉄遺跡群は律令国家体制を整え、製鉄量産化技術を確立した大和政権蝦夷征伐の最前線の兵器庫としての役割を担っていた。

また、これらの製鉄遺跡群の製鉄炉は近畿で育まれた大型の箱型炉と東北で育まれた壺型炉の両方がそれぞれの遺跡・時期に応じて確認されています。

今回発掘された武井製鉄遺跡群の大清水B遺跡・沢入B遺跡の注目すべき点は近畿で育まれた大型の箱型炉と東北で育まれた壺型炉の両方が同時期・同地区に並立し、「ズク型(壺型)生産に用いられていたこと、福島浜通り 北部地区遺跡群の特徴だといふ。

武井製鉄遺跡群 大清水B遺跡・沢入B遺跡の製鉄炉 2013日本列島発掘新発見展 図録より



大清水B遺跡の箱型炉

中央の黒い部分に粘土でつった炉があり奥の四角の穴は踏み籠の設置場所

沢入B遺跡の壺型炉

中央の黒い部分が炉で、その奥の長方形の穴が踏み籠、手前側が作業場



2013日本列島発掘新発見展 展示より



ミミズク土偶 上境埴台貝塚

飯倉の遺構

●天和・相馬・相馬古墳群 ●佐紀古墳群 ●宇布古墳群 ●百舌鳥古墳群 ●新郷古墳群

輪島丹沢火山原の上下で石器出土 地蔵平遺跡 始良カドラの火焔大を生き延びた北部九州旧石器人 百歳時代の念翁新付太刀 鳥居松遺跡

鉄 沖

京都府宇治の平安時代の土器